



ぐーぐーらいぶ

絵本を読み聞かせる「おはなしばんだ」や、移動図書館の「ぐーぐー文庫」の活動を通じて、子どもと子育て中の親を応援する活動を展開しています。



左から専任スタッフ・北川史歩子さん、ボランティアスタッフ・下田あゆみさん、理事長・大森正子さん、ボランティアスタッフ・井上愛香さん。

図書館司書の経験を生かし 親子に本の楽しみを提供

「本は人を結ぶ」という考えのもと、絵本の読み聞かせを中心に活動を行っているのが、ぐーぐーらいぶです。コミュニティセンターや商店会のイベントなどに出張して、主に未就学児を対象とした絵本のおはなし会を開いています。

専任スタッフが図書館司書という特徴を生かして、絵本だけでなく、育児本や料理本などの親向けの本もセレクトした移動図書館「ぐーぐー文庫」の活動も同時に開催。親子で本を楽しむ場づくりをしたり、おはなし会に参加して気に入った本を、引き続き自宅でも楽しめるように、貸し出しもしています。

また、読み聞かせた絵本の内容に関連した「乳幼児から参加できる工作教室」などのワークショップも企画。例えば、クレヨン題材にした絵本を読んだ後に、用意した布製のトートバッグに子どもが自由にクレヨンで絵を描いてオリジナルのバッグを作るといった、絵本から子どもの想像力を広げる活動も行っています。



古書の販売資格を取得し、絵本を中心に販売も行っている。



「乳児から参加できる工作教室」でこれまで作って来た作品。



貸し出し用の図書は自分たちで透明シートを使ってカバー。



事務所につくった授乳スペース。子どもたちの良い遊び場にも。

本を仲介役に、子育てに奮闘する 親の居場所づくりにも貢献

こうした活動を行う中で、小さな子どもを持つ親の行き場が思いのほか少ないことを実感。週に一度、貸し出し図書が並ぶ事務所を開放するなどして、子育て中の親が気軽に過ごすことができる居場所づくりにも力を注いでいます。

「子育てに不安を抱えている人は意外に多いものです。そして真面目な人ほどネガティブな情報を拾ってしまいがち。少しでもこうした方の役に立てるような支援ができればと考えています」と大森正子理事長は話します。

本は、知らない者同士がコミュニケーションするものです。ぐーぐーらいぶで出会った人同士がつながって、地域に良い人間関係の輪ができる環境づくりにも一役買っています。

NPO法人 ぐーぐーらいぶ

2003年に中野区で発足。その後2013年に武蔵野市に事務所を移して活動を続けている。おはなし会のほか、講演会やセミナー事業、本の受注販売や古本販売なども開始して、現在業務の幅を拡大中。

武蔵野市西久保2-3-12
<http://www.goo-goo-libe.jp/>